

# 韓国：済州島視察会 1

8月31日～9月2日の3日間、総勢16名のANIA関係者が済州島を訪問しました。主な目的は済州知識産業振興院とのMOU（Memorandum of Understanding、了解覚書）締結です。他にも済州先端科学技術団地の視察や日韓企業交流など内容の濃い視察を行いました。

8月31日(火)

## (1) 入国、現地集合

北海道、埼玉、千葉、愛知、京都の各協会から総勢16名の参加となり、出発地も違うことから現地(済州国際空港)集合としました。入国審査はパスポートと入国申告提出するだけで国内線から降りてきた感じです。韓国の人に聞いてみると空港のハブ化を進める為には入国カウンターでの時間をどれだけ短くするかが重要で「韓国は便利」と感じてもらいたいからだそうです。

町並みはハングル文字と右側通行を除けば懐かしい日本の地方都市のイメージです。



済州島の町並み

## (2) 16:00～ JDC 訪問

最初は済州国際自由都市開発センター(Jeju free international city Development Center: JDC)を訪問しました。済州島は軍事・外交・司法を除いた高度な自治権が与えられており、海外からの企業誘致などを積極的に行っています。JDCは政府出資の特殊法人で国際自由都市開発事業を推進し、済州先端科学技術団地の開発などを行っている団体です。済州島を北東アジアの中心地と位置付け、各種教育や税制上の優遇措置、施設などが充実させています。しかし、現時点では海外企業の入居はなく国内企業のみとの事です。このような先端技術団地は施設・設備など申し分ないものが揃っていますが、企業の入居が進まない現状は日本と同様です。地域によって問題は違うと思いますが思い切った施策(税の優遇ではなく無税にするなど)が必要と感じました。

電気自動車の実証実験も始めており工場誘致に力を入れ、JDCでは第2次産業の比率を4%から10%に引き上げる目標を立てています。



JDC 外観



JDC 事業紹介

## (3) 19:00～ 夕食会

海辺の堤防に納涼床を設置した海産物店での食事会。済州島は対馬海峡、東シナ海、黄海に囲まれた位置にあり、海の幸が大変豊富なところです。韓国では済州島産の海産物は高級品として取り扱われ産地偽装もかなりあるそうです。サバ、鯛、イカ、太刀魚、鮑など新鮮な刺身がどんどん出てきます。韓国風の食べ方として焼肉のようにサンチュなどの葉に刺身、コチュジャン、生ニンニクなどを巻いて食べると新しい味覚の世界が広がります。

しかし、ちょっと贅沢を言わせてもらえれば、醤油と山葵は日本から持って行きたかったです。



電気自動車



夕食会



マックの宅配



東門市場

## 韓国：済州島視察会 2

9月1日(水)

### (1) 10:00～ 業務協力締結・日韓企業交流会

済州知識産業振興院との業務協力調印式。日韓関係者が見守る中、中村会長と金院長がサインをしました。台風の影響で風雨が強くあいにくの空模様ですが、済州島には「雨を連れてくる人は良い人」と言う諺があるそうです。お互い仲良く協調していければと思います。

日韓企業交流会では各社HPに記載されている企業概要を翻訳し、その内容を基にお互いが質問をする形式となりました。韓国側からは積極的に日本のIT事情に対する質問や自社製品の売込みなどがありました。韓国の観光地として最も人気のある済州島では観光情報の提供ビジネスをいろいろと考えており、観光先進地である京都との協力を希望していました。



業務協力調印式

### (2) 12:00～ 昼食会

路地裏の雑居ビルの中にある韓国では有名な漫画の舞台にもなったという食堂で、済州知識産業振興院の金院長が主催する昼食会が開催され、済州島での一般的な家庭料理を味わいました。「スンデ」と言う豚の腸にもち米や野菜・モツなどを詰めて蒸した済州島版ソーセージやスンデを煮込んだスープが特に有名で観光客が引切り無しに訪れるそうです。スープは大変辛く、全員汗を流しながらの食事となりました。



記念写真

### (3) 14:00～ 日韓企業説明会

午前中の企業交流会参加者に加えて、IT 関連学科で学んでいる学生やその卒業生約 50 人が新たに加わっての企業説明会を開催いたしました。始めに中村会長、金院長による挨拶があり、日韓各 5 社が代表として自社のプレゼンテーションを行いました。各社 20 分の時間はあるのですが、通訳が入るので実質的には半分の 10 分しかありません。話者が調子に乗って話しすぎると通訳がついていけず、その逆に小間切れで話すと話者の調子が出ず盛り上がりにかける感じとなり、国際ビジネス(交流)の難しさを実感しました。そのような中にも魅力的な韓国企業もあり、ANIA 関係者の何人かはプレゼン終了直後にその企業を訪問し、実物を見せてもらうなど企業間の交流を行っていました。

コンテンツやバーチャルゴルフゲームなど工夫を凝らした上で価格競争力のある製品が多いと感じました。



昼食会 金院長の乾杯

### (4) 19:00～ 夕食会

昼食会に続き夕食会も済州知識産業振興院の金院長主催で行われました。済州島の美味しい海産物(刺身)がメインです。メイン料理が出てくるまで付け合せでエビ、鮑、サバ、イカ、豆腐、キムチ等があり、韓国流のもてなしとしてどんどん出てきます。美味しいものがあれば「××주세요」と言えばいくらでも出てきます。この付け合せはサービスであり、これをケチると「この店はダメだ」と言われるそうです。調子に乗って食べているとメインが来る前にお腹が一杯になってしまいます。メインは鯛の刺身 3 種と鯛の煮付けコチュジャン味(正確にはわかりません)



日韓企業説明会



夕食会 中村会長の中締

## 韓国：濟州島視察会 3

9月2日(木)

### (1) 10:30～ 濟州国立大学訪問

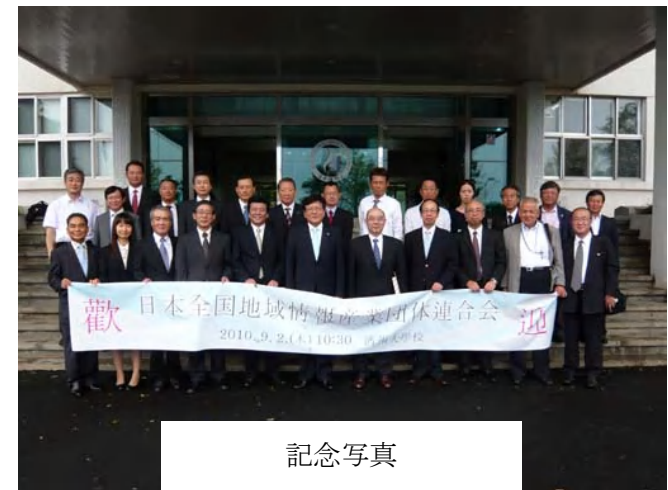
濟州国立大学の許総長を表敬訪問しました。私たちの前にはサウジアラビアから大臣が来ていました。許総長から大学として優秀な人事材を供給していくので ANIA を通じてのインターンシップへの協力依頼や日本企業進出のための協力を惜しまないとお言葉をいただきました。その後、中村会長、長谷川理事の挨拶のあと、参加者の紹介を行いました。



許総長との懇談

### (2) 11:30～ 昼食会

濟州国立大学許総長主催の昼食会を開催しました。濟州島は豚肉でも有名なところで、濟州島で焼肉と言えば豚肉だそうです。サムギョッサルという三枚肉の脂を落としながらカリカリになるまで焼いて、サンチュ、ニンニク、キムチなどを巻いて食べると「韓国に来た！」という気分になります。濟州島の豚肉は世界で一番美味しいと言われているそうです。小豆や銀杏をいれたビビンバは素朴な味で日本と韓国は同じ文化ではないかと感じたほどです。



記念写真

### (3) 14:00～ 観光

城山日出岬:10万年前の海底噴火によってできた巨大岩石で世界自然遺産にも登録されています。台風一過の晴天のため大変蒸し暑く、立っているだけで汗が噴き出てきます。時間の関係と暑さのため頂上(海拔 178m)までは登りませんでした。すがすがしい景色です。

万丈窟:世界最大の溶岩洞窟で世界自然遺産にも登録されています。洞窟の中は大変涼しく上着を1枚羽織りたくなるほどです。前日の台風のせいもあるのですが、天井からの水の滴りが奥へ行くほど激しくなり、雨具なしで入ったため途中で引き返しました。

どちらも自然遺産としてすばらしく、次回来る機会があれば山頂まで登り、洞窟の奥まで行ってみたいものです。



昼食会 サムギョッサル

### (4) 帰国、現地解散

残る人、ソウルへ移動する人、日本へ帰る人、各々の予定に合わせて現地解散。ちょっと天気に恵まれなかったところもありますが、1日ずれていれば台風で行けない、帰れないという状況を考えれば良かったと思います。

### (5) まとめ

かつて日本企業が得意だった分野に韓国企業が進出し競争が激化しているというニュースを聞かない日はありません。韓国製品を日本ではあまり見る機会がなかったのですが、彼の地を訪れてみて韓国の強さを多少なりとも感じる事ができました。例えば、最初に訪問した JDC の建物ですが見た目はすごく立派です。しかし、階段や廊下の手すりなど「機能と安全性を満たしていれば問題ない」と言うところが随所に見られます。この考えが世界市場を相手にしたときの価格競争力になっていくのではと感じます。ホテルや食堂でも「食べ物」にはサービスを提供しますが、接客はそれなりです。過剰な接客をしない代わりにコストを抑え、主たるもの(この場合食べ物)をきちんとするというメリハリが感じられます。日本のようにユーザが使いこなせない過剰な機能や過剰な接客(二重敬語、皿は音を立てずに置くなど)をすることでコストアップとなり、日本国内では通用しても一般の海外では通用しないと感じました。我々IT業界も同様で「あれば便利」と顧客に提案しカスタマイズ案件を受注するというビジネスモデルの限界を実感しました。ロールスロイスのように富裕層だけを相手にするのか、スズキのように庶民を相手にするのか企業としての考えが問われているのではと感じた韓国濟州島訪問でした。

(事務局 武田雅哉)



城山日出岬